

平成29年度 都立学校・学校経営シート

校章		都立富士高等学校・附属中学校		併設型	中学			高校								
		国際競争力の高いトップリーダーの育成				基 本 情 報	入学 募集人員	120人(男子60人・女子60人)			推薦:男女各8人ずつ、一般:男女各31人ずつ					
基 本 情 報	所在地	〒164-0013 中野区弥生町五丁目21番1号		電話 番号	03-3382-0601		応 募 倍 率	27年度	28年度	29年度	27年度		28年度		29年度	
	アクセス	(1) 地下鉄丸の内線中野富士見町駅下車徒歩1分 (2) JR中野駅からバス(新宿駅西口行「富士高校」下車1分) (3) JR渋谷駅、京王線笹塚駅からバス(中野駅行「富士高校」下車1分)				男子		4.70	4.88	4.50	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般
本 情 報	特色ある 教育活動 (学校設定科目等)	① 理数アカデミー校として、6年間の計画的理数教育の推進				生 徒 在 籍 数	359			577						
		② 学力推移調査を年3回実施し、英・数・国の3科目においてCランク0名、Sランク各学年15名とする。					主 な 学 校 行 事	体育祭・文化祭・合唱祭			体育祭・文化祭・合唱祭					
報	教育活動	③ 富士サポートシステムなどの個別学習指導を行い基礎基本の定着を図る。				主 な 部 活 動		陸上・剣道・なぎなた・サッカー・ 管弦楽・探究部			陸上・剣道・なぎなた・サッカー・管弦楽					
		④ 英語4技能の向上をめざし、将来国際リーダーとして使える英語力を養う。					校 服	男子	制服		男子・詰襟(黒)	制服	男子・詰襟(黒)			
報	教育活動	⑤ 「上位層が飽きない授業」「課題ありきの授業」づくりとアクティブ・ラーニングを推進する。				自 律 経 営 推 進 予 算 29年度(単位:万円)		女子	女子・セーラー服		女子・セーラー服					
		⑤ 「上位層が飽きない授業」「課題ありきの授業」づくりとアクティブ・ラーニングを推進する。					学校評価	学校評価アンケート、指導部進学指導班分析			理数アカデミー校 英語教育推進校 スポーツ特別強化指定校					
目指す学校		○難関国公立大学等に合格させる学校 ○自主自律の精神を備えた生徒を育てる学校 ○探究力を培う学校 ○国際社会で活躍できる人材を育成する学校				ホームページ	http://www.fuji.metro.tokyo.jp									

今年度の重点目標		今年度の取組と自己評価									
----------	--	-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

目 標 ①	高度な学力の向上 ○習熟度別授業や少人数授業、「富士サポートシステム」等の補習を活用し、学力の確実な定着を図る。 ○考查ごとに到達目標を明確にし、達成感・課題が得られる授業を推進する。 ○教科主任会を中心に授業・考查の改善を図る。 ○学力テスト分析システムを活用し、効果的な進学指導を行う。	○習熟度別少人数授業を英語と数学で実施するとともに、富士サポート、富士アカデミー等の講習を計画的に実施し、成績上位層の生徒の更なる学力向上及びスローラーの生徒の基礎学力の着実な定着に努めた。○高大接続改革に対応するよう初見問題導入、記述問題の精選、課題の精選と複線化を強化した。○学力テスト分析に基づく授業改善策の検討等を行い、目標とする数値とその時期について明確に共通認識を持った。○教育機関による受験指導研修会の実施、研修会への教員延べ13名参加者の教科会報告と実践により、効果的な進学指導を実施した。
目 標 ②	自学自習 ○放課後スタディや朝学習を実施し、予習・復習の習慣化を図る。 ○自習室、自習机を整備し、自学自習の学習環境を充実させる。 ○ビジネス手帳タイプの生徒手帳や、学習コンテンツを活用し、自宅学習時間を計画的に確保する。 ○励まし効果につながる評価を工夫し、生徒の学習意欲を喚起する。	○富士サポート、富士アカデミー、放課後スタディを計画的に実施し、中学期の内の学習習慣の確立に努めた。また、生徒一人一人の課題に応じたきめ細かな指導を行い、高校では5教科の基礎学力の着実な定着に努めた。○7時までの下校延長時間の中で、自習室・自習机を利用者が増え高校3年生は3月まで利用し、後期までの受験が定着した。○学習計画表や自宅学習時間調査を活用し、生徒が自律的に自宅学習を行う習慣を身に付けるよう、計画的に指導した。来年度は中学は定期で、高校は日々で学習時間調査を実施し定着化を数値測定していく。○評価計画に基づく評価を適切に実施し、生徒のやる気、モチベーションの維持向上に努めた。
目 標 ③	理数教育、探究活動、言語教育等の充実 ○理数アカデミー校として、理数教育を推進する。 ○高大連携を推進し、探究活動の充実を図る。 ○TOIECブリッジ、英検資格へのチャレンジ、JET・ALTと連携した取組を通して、使える英語力の向上を図る。 ○特別活動を通して、心の教育の充実に努める。	○プロジェクトチームを組織、探究未来学の中学3年の授業計画を抜本的に見直し、組織的に授業学習活動ができるよう授業計画及びワークシート補助教材を作成した。1年間の学習活動の集大成として【FUJI PORTFORIO】を編纂作成した。生徒全委員に配布し、学習活動の起点とし学習活動の蓄積を見る化した大学での学問を意識させることを意図し、サマーサイエンスキャンプで研究への動機付けをさせた。○4技能の育成を図り、GTECを導入し、経年で組織的に取り組む。○豊かな感性を育むため、芸術鑑賞教室、文化祭、合唱祭等の学校行事の充実に努めた。○今年度は、小石川中等教育学校発表会へ参加し横の連携を作り、校外のディベートコンテスト、企業育成事業科学コンテスト、数学教育レポート、作文等を応募した。

数 値 目 標	今年度の数値目標の内容								26年度	27年度	28年度	今年度	30年度	31年度	32年度			
									目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績		
	目標①	大学入試センター試験5教科型受験者人数							100	63	100	90	100	96	110	82		
	目標②	難関大学を含めた国公立大学の現役合格者人数							50	37	50	43	50	37	50	45		
目標③	附属中学適性検査応募倍率							7	5	6	5	6	5.4	5	5.03			